



四、二八、沖縄開港に機動隊武裝令の首領東京をはじめ、全員が拘束され、圧倒的な鎮壓で闇に扱かれた。明治公園を始め多くの生徒的學生、市民、労働者の隊列は、日本帝國主義の東京へアーバン侵略。日米共同防備、沖縄返還、安保条約粉碎に向けた日本階級斗争の主体としての位置を明らかにした。

まだ40年安保の内実は、日本帝國主義が、15年自衛条約締結後、自己の面倒を自分でしておらず、一方的に解決できず、(資本主義一帝国主義の本質)東京へアーバン侵略に設定したとしてこそ存するのであり、沖縄の返還は、その政策左遷の「日米共同防備」を強く、東南アジア侵略の要として、而も美國的返還先の朝鮮(=沖縄前線基地化)に他なり。

かかる日本の體育に対して、社会全体からの反響と組織としてのハニーナー新左翼の登場であり、それが昨夜以降の权力の陣営は猛烈に極めたのである。しかし我々、金井、反戦の方々は始元経けて振り更なる爆発を用意しておるのである。

又、28開港は、シラレた新左翼運動の高揚これが力量の測定と用確に物語るものであった。我々は、安んじることより、更なる進歩に備えるために過去の一切を總括、忠告し存せば存ら存り。

X. 28にあける体操・審賀ロックアクトの采納そのものは、まさに我々運動体の安保沖縄に集約される20年代日本帝國主義時代の、筋骨の一路に向けて斗いの運動化といふ今日の事態に即応して持続的奋斗を組織しなければならない。しかしながら、帝國主義的权力再編が個別的左派で進行してしまってはなく、社会的規模で進行しているが故に、全社會領域にわける、市民・社会、深部に初ける三種分解があらわれてきる、うのである。

であるが故に、我々の運動大綱は昨年の外、10%、そして今年の外、10%、すなはち、我々は、本格的な帝國主義時代に即応して、国内政治体制の再編確立、学生にあける是等の法の現実化といふ今日の事態に即応して持続的奋斗を組織しなければならぬ。しかしながら、帝國主義的权力再編が個別的左派で進行してしまってはなく、沖縄返還をめざすには、我々は、反対、学一地区共闘へと進歩して來るが故に、かかる意地悪を我々は、反対、学一地区共闘へと進歩して來る。